

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792400030		
法人名	株式会社 ベストビジネスコミュニケーション		
事業所名	認知症対応型グループホーム結の郷		
所在地	沖縄県中頭郡北谷町吉原1180-1		
自己評価作成日	令和2年 1月29日	評価結果市町村受理日	令和2年 4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4792400030-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	令和2年 2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族が気軽に面会にきてくださり、職員も親切でのんびりなので入居者様も一緒にのんびり過ごし家庭の中にいる雰囲気の中、家事手伝い、体操、脳トレ、映画鑑賞やカラオケをしています。時々外出支援をしたり気分転換をはかえい認知症状が悪化しないように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は開設6年余になる3階建て民家を改修したグループホームで、広い居間は、家庭的な雰囲気が味わえる空間づくりをしている。ソファやイスが多く配置され、利用者は思い思いの場所でゆったりと過ごしている。理念に掲げた「利用者一人一人の尊厳を守る」支援に取り組み、令和元年ケア目標7項目を設定し、職員は利用者と同線に合わせてゆっくり話そう努め、優しい声かけ、排泄や入浴時における羞恥心への配慮等を意識した支援を行っている。3食事業所で調理し、独立した広い台所で、利用者は野菜の下ごしらえや食器洗いをしている。職員も利用者と一緒に同じ食事を摂っている。家族の面会が多く、行事への参加もあり、ライン等を活用して利用者の様子を伝えている。利用者が要介護度4から5になった時は、ケアに対して不安にならないよう家族と話し合い、信頼関係の構築に努めている。利用者は日常的に近隣住民とあいさつ等を交わし、職場体験終了後の中学生とも交流が続いている。北谷町の運動会の玉入れや認知症の人が接客する「注文をまちがえるゆいまーな喫茶店」に参加し、利用者に寄り添った支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングの時や何かに悩んだときに理念をもとに話し合いをしています。	「利用者一人一人の尊厳を守る」等を理念に掲げ、「一人一人を見て、一人一人を意識する」支援に取り組んでいる。ミーティングや勉強会を通して理念の共有について話し合い、朝の申し送りを行うことで、職員の共通理解を図っている。令和元年ケア目標として、「ゆっくり話す、利用者と目線を合わせて話す」等の7項目を設定し、職員一人一人が研鑽し、よりよい介護サービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の子供達が来たり、外で会ったときも気軽におしゃべりしています。	自治会に加入し、地域活動や行事等の連絡がある。散歩で知り合いとあいさつを交わし、事業所前で立ち話をし、近隣住宅の庭を見物に出かけている。職場体験で中学生を受け入れ、終了後も交流が続いている。ボランティアで沖縄ハンズオンNPOが歌や劇を披露している。北谷町の運動会に利用者2人が玉入れで参加し、認知症の人が接客する「注文をまちがえるゆいまーるな喫茶店」にも職員と利用者に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ゆいまーるな喫茶店に参加しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況の報告。	運営推進会議は偶数月に開催し、利用者や家族、地域代表が参加し、利用者の状況・活動報告、事故報告、職員の異動報告、意見交換等が行われている。議事録、及び外部評価結果等も公表している。行政に事情を伝えてはいるが、運営推進会議の開催が3回となっている。行政の参加が確認できず、知見者の参加も少なかった。	運営推進会議は、外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合い、地域の理解と支援を得るための貴重な機会である。運営推進会議の6回の開催とともに、行政、知見者の参加が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアマネ勉強会に参加し日頃から連携している。	行政主催のグループホーム連絡会やケアマネジャー勉強会に参加して情報交換を行い、困難事例は地域包括支援センターに相談する等、行政との協力関係に努めている。当事業所で認知症カフェを実施し、チラシ配布やお菓子づくりを通して地域住民との交流を図っている。認知症啓蒙活動として、行政のイベントに職員や利用者が参加し、ちやたんニライセンターで作品展示等を行っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの方針や定期的に勉強会を開催しています。	身体的拘束等の適正化のための指針を作成し、職員のみで構成する身体拘束廃止委員会は、3か月に1回開催している。定期的に勉強会や研修を実施し、身体拘束をしないケアについて職員への周知に努めている。法人の管理者会議においても身体拘束廃止について話し合っている。第三者が参加する運営推進会議を活用した身体拘束適正化委員会の実施に期待したい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	課題を職員一人で抱え込まないように不定期に開催しています。	高齢者虐待防止については、重要事項説明書に明記され、マニュアルも整備している。スピーチロックの勉強会で、言葉による行動制限について、動画等も使用して学習し、職員に周知している。研修等を通じ、人権意識や権利擁護の知識、技術の向上に努め、虐待防止に取り組んでいる。職員の、支援にあたっての悩み等について、管理者は相談できるよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参考資料を勉強したり、外部の研修会に参加。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や入居時に家族様に説明を行い、契約時にも説明を行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は日々のかかわりのなかで聞いています。家族からの意見が来所時や電話などで聞いています。運営推進会議の中でも家族からも話を聞いています。	利用者からはその都度意見や要望を聞いている。家族からは面会時や電話等で意見を聞き、「寒いからひざ掛けをしてほしい」、「本人の好きな歌のリスト表を持ってきたので流してほしい」、「お守りを持ってきた」等があり、対応している。家族とはライン等での情報交換も行っている。要介護度4から、5になった利用者の家族からケアに対する不安を聞き、話し合うことで安心できるよう、信頼関係の構築に努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は個人面談、業務の中にも随時間聞いています。	職員の意見等は、必要時にミーティングを行い、ユンタク会として聞いている。利用者に対するケアや状態把握についての提案等は、介護計画に反映させている。職員の業務等の悩みには個別面談を行っている。利用者の不穏等への対応について、職員の話聞き、ストレス解消には食事会等を行っている。法人の管理者会議にリーダーとサブリーダーを参加させ、向上心を持って働けるよう支援している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績などを評価し昇給しています。	法人の就業規則があり、昇給や資格手当等の労働条件や諸制度が整備されている。助成制度があり、介護福祉士に合格した職員もいる。非常勤も含めた全職員が健康診断や人間ドックのどちらかを受け、夜勤担当者は年2回受診している。年休も調整して取得でき、休憩時間は休憩のできる3階の空きスペースを利用している。職員に対しては、本人の様子を見て管理者が面談する等配慮し、職場の環境整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内でもユーチューブを使って認知症の基礎知識の勉強をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の事業所の職員と活動を通じて交流を図っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時相談時に本人や家族に施設見学をして頂き、また何度かご本人に会いに行き挨拶をかわし、不安を取り除くようにしています。		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に本人や家族に施設見学をしていただき、又連絡を取り合い不安や要望をきいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を把握し安心して生活できるように職員と一緒に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はゆったり時間をともに過ごしコミュニケーションが取れ、信頼関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時、電話などで生活の様子を伝え、家族もできる事は一緒にしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧盆、正月などの行事は一時帰宅できるように支援しています。	利用者の多くは地元出身で、家族の面会が多く、親戚の訪問もある。事業所周辺の散歩で近隣住民との交流がある。旧盆や正月に帰宅する利用者もいる。利用者の要望で、懐メロ音楽や野球、闘牛の動画を流している。髭剃りを支援したり、医師の了解を得て毎日タバコ3本を提供している利用者もいる。米国在住の娘からの電話を利用者に取り次ぐ等、関係性の継続支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士の席の配置、トラブル回避の為距離の工夫を行い良い関係で過ごせるように対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所先に情報提供を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から聞いて一緒に考えています。把握が難しい方は家族や本人の表情や言動をくみとって支援しています。	思いや意向は、利用者からは普段の会話のなかで聞き、困難な場合は動作や表情で把握している。「体操を継続させてほしい」という利用者には体操の動画を流し、「家に帰りたい」と荷造りをする利用者には、「家族と連絡取れたら帰ろうね」と言って、家族に連絡して面会に来てもらうよう、本人の言った言葉を汲み取るよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族の意向を把握し安心して生活できるように職員と一緒に検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズム、心身の状態の変化を把握し職員と共に共有し支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の意見、要望を聞き職員と生活の様子、状態を確認し合い介護計画を作成しています。	本人や家族、職員、管理者が参加して、サービス担当者会議を行い、本人等の意向を反映した介護計画作成に努めている。長期目標、短期目標ともに6か月で設定され、モニタリングは3か月ごとに実施し、半年ごとに見直しを行っている。入退院等の状況変化で随時見直しにも対応している。家族からは食事が摂れて、のんびり暮らしてほしいとの要望が多く、現状に即した介護計画を作成し支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の生活の様子や気づきは個別記録に記入し情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、ほかの事業所からのアドバイスを受けながらニーズに合わせて対応できるよう支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加し地域との交流会に努めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	Nrsが週2回ほど勤務し相談、助言を受け、主治医には受診時に報告、助言をうけています。	利用者は全員、入居前からの馴染みのかかりつけ医を継続受診している。定期受診、他科受診は家族対応としているが、7名は職員が送迎支援を実施し、必要に応じて医師への状況報告を行うこともある。受診結果は主に家族から口答で報告を受け、職員は申し送りで共有している。週2回勤務の看護師との24時間連絡体制が構築され、日常的に助言を受けている。利用者の健康診断は家族対応で実施し、定期受診でも半年に1回は血液検査を行っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	Nrsに報告し、相談・助言を受け受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に何度か行き医師や看護師から症状や治療内容を家族と確認し退院に向けて情報の共有をしています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合の対応の指針の説明、理解をいただいています。	利用開始時に「医療連携体制に係る指針」、「緊急時の連絡体制」、「重度化に関する指針」を家族等に説明している。必要に応じ、家族等との早めの話し合いに努め、「医療連携体制同意書」を取り、重度化・看取り支援に関する意向確認も3名に行っている。職員は、看取りを実施する方針について共有し、体制づくりと勉強会に取り組むことを課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルがあり、急変や事故発生時には対応できる体制である。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。	昼夜想定避難訓練を自主訓練も含めて計4回実施し、実施報告書等を整備している。地域住民に文書や声かけで協力を依頼し、職場体験中の近隣に住む中学生が5名参加して利用者の誘導等に協力している。夜間時の一時避難場所は、3階の角部屋が良いとの助言を消防署から受けている。エレベーター前の予備室に水やインスタント食品、缶詰等を約3日分備蓄し、寝具等も備えている。台風時は2人体制とし、自家発電等を備えている。各種災害対応マニュアルの整備に期待したい。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の羞恥心に配慮した言葉の声掛けや対応をしている。	職員は、利用者と目線を合わせてゆっくり話すように努め、特に、優しい声かけ、排泄や入浴時における羞恥心への配慮を意識して支援している。各居室は換気の時以外はドアを閉めている。個人情報の取り扱いについては、「個人情報使用についての説明書」と「個人情報提供同意書」をもとに確認し、来訪者の居室への入室、事業所内での写真の閲覧、調査時等の書類の閲覧については別紙の同意書で項目毎に意向を確認している。個人情報保護方針や利用目的の揭示は確認できなかった。	特定した利用目的を明示した上で、個人情報保護方針と利用目的を掲示することが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に耳を傾け状態に合わせた対応を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールの中で本人が気分が乗らないときは職員とゆったり過ごしたりと対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事の時はおしゃれ着をきたりメイクをしています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのしっぽとりや食器ふきのお手伝いに参加しています。	食事は、昼・夕食は調理担当職員、朝食は夜勤者が作り、家庭的な食事を中心に、利用者が好きな芋料理や肉・卵料理も随時献立に加えて提供している。独立した広い台所は職員と利用者が一緒に作業ができ、利用者は、野菜の下ごしらえや食器洗い等をしている。食事は、中央テーブルを囲んで各々自分のペースで食事を摂り、職員も1名以上が同じ食事を一緒に食べている。日によって、台所や離れたソファー席で一人食事をする利用者もいる。敬老会やクリスマス会はオードブルやバイキング方式で用意し、差し入れの果物やケーキ等も添えて賑やかな食事会となっている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人に合わせた食事形態や好み、栄養のバランスの工夫をし温かい飲み物などを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で困難な方は職員が口の中の残食を取り除いたりして本人にあわせた口腔ケアを行っています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄誘導、声掛けを行っています。	排泄パターンは、排泄チェック表と利用者の仕草や緊張した表情等で把握に努めている。日中は、居間近くのトイレと事務室内の職員用トイレを使用し、できるだけ全利用者にてトイレでの排泄支援を行っている。昼間は全員布パンツを着用している。夜間はオムツ利用者もあり、オムツ交換は声かけに注意して支援している。1か所のトイレ入り口が、折れ戸とカーテン仕様になっている。浴室とトイレの間の仕切り用カーテン、及びトイレ入り口の折れ戸の不具合の改善に期待したい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫や、適度な運動、マッサージを行っています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、午前中に入浴を行い、本人が入りたくない場合は時間を変えたりスタッフを変え対応しています。	入浴は週3回の午前中を基本とし、体調や受診の予定等に応じて日時を変更するなど柔軟に対応している。同性介助を基本として、できるところは自分で洗ってもらうよう支援するなど、利用者の羞恥心への配慮に努めている。異性介助になる場合は了解をもらっている。入浴拒否がある場合は、職員の交代や声かけ等の工夫をしている。利用者が楽しめるよう入浴剤を入れた足浴、リンスや固形石鹸等にも配慮している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に合わせて自由に休息できるように対応しています。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が1週間分セットしているので毎食後職員が準備し服薬時には職員二人でダブルチェックを行っています。薬情の把握に努めています。	利用者一人ひとりの服薬内容については、いつでも確認できるように薬事情報を綴っている。看護師がセットした1週間分の薬を職員が朝、昼、夕、夜毎に一包化して名前を書き、食器棚に収納している。近くに服薬手順書を掲示し、与薬時は職員2名で名前と薬をチェックし、飲み込むまで確認することとなっている。新任職員は、利用者の顔と名前を確実に覚えてから服薬支援をしている。誤薬はないが、誤薬が発生した際の対応手順もマニュアルに追記することに期待したい。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の好きな方、塗り絵が好きな方、カラオケが好きな方など個々の楽しみを職員と一緒に楽しんで過ごしています。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日や希望があれば散歩やドライブにできています。	日常的に玄関前や近隣住宅の庭、鶏小屋、近くの川沿いの道等を散歩し、知り合いに会って挨拶をしている。ドライブがてら元の自宅跡を回ったり、ファーストフード店に立ち寄ることもある。家族の協力を得て買い物をし、自分で支払いをする利用者もいる。重度の方や外出を好まない方には、ベランダで桜や菜園を眺める等の外気浴を支援している。全体的な外出支援が課題となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族にお願いしています。		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和2年4月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも話せる機会を設けています。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、職員と一緒にソファでテレビを見ながらと本人がくつろげるように心がけています。	共用スペースとして、床の間つきの和室やテレビが置かれている洋間、ベッドコーナー、廊下等を合わせた30畳以上の広い居間がある。お茶セットのお盆が置かれた中央テーブルを中心に、窓に近いコーナーにテーブル・イスセット、周囲にソファや椅子が多く配置され、利用者は居心地のいい場所で思い思いに過ごしている。家庭的な雰囲気が味わえる空間づくりに配慮し、浴室やトイレ等の利用者が立つ位置の壁にはクッション材のマットを貼っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所で職員とお茶を飲みながらくつろいだり外の景色を眺めゆっくりすごせる空間。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族や花の写真を持ってきて飾ったり家族の手紙を壁に貼ったりと本人、家族が好きな様に工夫している。	居室の多くは窓が二面あり、ベッドや造り付けのダンス、エアコン等が設置されている。部屋ごとに違う壁紙で各々雰囲気が異なっているが、どの部屋も明るく、整頓されている。利用者は、テレビやチェスト、ランプスタンド、こだわりの布団カバー、スーツケース等を持ち込み、部屋づくりをしている。本人の希望で、連絡先一覧や職員一覧を掲示している居室もある。ナースコールの代わりに鈴を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下には手すりを設置しつかまり立ち、歩いて移動しやすいです。		